

全国在宅療養支援診療所連絡会 第3回全国大会 プログラム別詳細

プログラム	シンポジウム（共催：日本プライマリ・ケア連合学会）
タイトル	診療所で行う外来診療、在宅医療、地域ケア ーそれぞれの地域においてー
日時	平成28年3月12日 16:00-18:00
会場	第1会場（501）
座長	鈴木央（鈴木内科医院） 北西史直（トータルファミリーケア北西医院）
演者	大橋博樹（医療法人社団家族の森/多摩ファミリークリニック） 中川貴史（寿都町立寿都診療所） 小嶋一（手稲家庭医療クリニック） 上村伯人（上村医院）
企画趣旨・概要	<p>在宅医療推進が叫ばれ、2012年厚労省が在宅医療推進元年と位置付けた時点から、在宅医療推進はさらに進み、新たなステージに入ったと考えられる。地区医師会の役割が明確になり、地域包括ケアの重要な要素とも位置付けられている。</p> <p>今まで、在宅医療の推進の主軸を担ってきたのは在宅医療を専門的に行う診療所であった。複数の医師が在籍し、24時間対応、重症対応が可能で、より多くのニーズに対応することができていた。しかし、これから新たに在宅医療を担う主軸になるべきなのは、外来診療を行いながら比較的小規模の在宅医療を行う診療所ではないだろうか。</p> <p>地域包括ケアの議論の中で、重要とされていることは、在宅医療における人生の最終段階の医療をどう供給するかという点である。もちろん、緩和ケアの技術や24時間365日のケア供給体制も重要であるが、すべてが終了した時の満足度や納得度は、「そのひとがどう生き、どう病と闘ったのか」ということを知り、そのひとの考え方や感じ方を尊重しながら介入を行うこと（ここではスピリチュアリティへの配慮と呼ぶ）もまた重要である。ここでは、患者といかに長く関わり、元気な時も、病める時とみに歩む、医療の継続性が重要になる。すなわち、外来診療を行う医師が、在宅医療で人生の最終段階により深く関わる大きな意味を持つことになるのである。</p> <p>また、診療所が地域包括ケアに深く関わり、地域における主導的な役割を果たすことも少なくない、このような活動を報告し、参加者のそれぞれの地域での活動の助けとしたい。</p> <p>本シンポジウムでは、そのような外来診療から継続した在宅医療の具体的なケースや地域ケアへの関わりを見ながら、どのような利点と課題があるのか、議論していくものにした。</p>

（敬称略）